

EMERGENCY WATCH

No. 107 Nov 2019

神戸こども初期急病センター

2019年10月
受診者数
1565人

疾患頻度

- | | |
|-----------|------|
| 1. 急性上気道炎 | 399人 |
| 2. 感染性腸炎 | 223人 |
| 3. クループ | 179人 |
| 4. 喘息 | 152人 |
| 5. 気管支炎 | 128人 |

RSウイルス感染症が8月23名から、9月53名へと急増していましたが、10月は23名へと収束しつつあります。クループ症候群の患者さんが急増しています。

夜寒が身にしみるところとなりました。今回はこれから猛威をふるうであろうインフルエンザに関する、素朴な疑問にお答えします。

Q1. インフルエンザの型って何？

インフルエンザウイルスにはA型、B型、C型の3つがあり、日本で冬季に流行するのがA型とB型です。A型はさらに亜型に分けられ、近年流行しているのはA(H1N1)亜型、A(H3N2)亜型(香港型)とB型の3種類です。流行するウイルス型や亜型の割合は、国や地域で、またその年ごとにも異なっています。型や亜型が複数あるため、1シーズンに複数回インフルエンザにかかることもあります。

Q2. 治療法は？

経口薬のオセルタミビルリン酸塩(タミフル®等)、バロキサビルマルボキシル(ゾフルーザ®)、吸入薬のザナミビル水和物(リレンザ®)、ラニナビルオクタン酸エステル水和物(イナビル®)、点滴薬のペラミビル水和物(ラピアクタ®)などがあります。これらの治療薬はウイルスの増殖を抑制するものです。適切な時期(発症から48時間以内)に開始すると、発熱期間は通常1~2日間短縮され、鼻やのどからのウイルス排出量も減少します。しかし、症状が出てから2日(48時間)以降に服用を開始した場合、十分な効果は期待できませんので効果的な使用のためには用法、用量、期間を守ることが重要です。治療薬は、年齢や吸入が確実にできるかなどを踏まえて選択します。点滴薬は内服や吸入が難しい場合や、重症の場合に考慮されます。

Q3. 予防接種は有効か？

6歳未満の小児を対象とした2015/16シーズンの研究では、発病防止に対するインフルエンザワクチンの有効率は60%と報告されています。確実に発病を予防するとは言えませんが、発病のリスクを低下させ、発病した場合も重症化や死亡を予防する一定の効果があるとされています。流行前に接種するようにしましょう。

Q4. 予防接種以外の予防法は？

- ・手洗いは感染症対策の基本です。またインフルエンザウイルスにはアルコール製剤による手指衛生も有効です。
- ・空気が乾燥すると気道粘膜の防御機能が低下し、インフルエンザにかかりやすくなります。特に乾燥しやすい室内では、加湿器などを使って適切な湿度(50~60%)を保つことは効果的です。
- ・体の抵抗力を高めるため十分な休養とバランスのとれた栄養摂取を心がけましょう。
- ・不要な人混みや繁華街への外出を控えましょう。外出の際のマスク着用はある程度飛沫感染等を防ぐ防御策になると考えられます。

さらに詳しく知りたい方は、国立感染症研究所ホームページをご覧ください。

発行：神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども急性疾患学部門



EMERGENCY WATCH

特別連載 こどもの事故 part 8

急に寒くなってきましたね。暖房器具や温かい飲みものや食べ物が恋しい季節ですね。今回はこの時期に増える「こどものやけど」のお話です。

今回注意喚起をしたいのは調理器具によるやけどです。調理器具によるやけどで思い浮かべやすいのは台所のコンロで沸かしたお湯かもしれません。しかし、多くを占めているのは皆さんが日常よく使っておられる、炊飯器と電気ケトルです。

消費者庁と国民生活センターとの共同事業に参画した一部の医療機関からの報告ではこれらの調理器具によって生命または身体に被害が生じたやけどにあった14歳までの子どもの数は2010年から2017年までの間に375件でした。電気ケトル等によるやけど事故に関する情報が241件、炊飯器によるやけど事故に関する情報が134件、そのうち2歳以下の乳幼児は289件と約8割を占めていました。

この数は一部の医療機関からの報告数にすぎませんし、受診するほどでもないという保護者が判断した例は含まれていませんのでもっと多くのやけどの乳幼児が存在するといえます。多くが軽症ですが入院が必要な例もあり、痕が残るなどの後遺症がある例も報告されています。特に電気ケトルによるやけどは重症な場合が多く報告のあった241件中12例が命に係わる状態である重症であったということです。そのなかでもつらいのは死亡例ですが、2011年度の厚労省報告では家庭内でのやけどでの死亡は1年間に5例もありました。

電子ケトルは近年使用する家庭が増えてきておりコーヒー1杯分ぐらいならすぐに沸かすことができる便利な調理器具です。私も以前自分の部屋で使っていました。この調理器具は置く場所を選ばないために居間などのこどもの動線上に置かれることが多く、沸いた湯を注ぎやすくするために



傾けるといとも簡単に湯が出る構造になっているものも多く存在します。図1のようにコードに引っかかったこどもに熱湯が降り注ぎ、広い範囲をやけどすることになります。

図1 政府広報オンラインより

炊飯器でやけど？なんで？なんて皆さんは思われるかもしれませんが

炊飯器はスイッチを入れると知らない間にお米をおいしく炊いてくれます。メロディーが鳴れば炊き上がりですが、その間に炊飯器に何が起きているかじっと見た人はあまりいないと思います。炊飯器でご飯を炊くときには「シューシュー」と音を立てて蒸気が定期的に本体上部から出ています。その蒸気を好奇心旺盛なこどもが見つけたら触りたくなるのも無理がありません。図2のように手をかざしてやけどを負ってしまいます。



図2 政府広報オンラインより

子どもをこのような不幸な事故にあわせないためにはどうすればいいでしょうか？このような危険があることを知ること、そして危険から子どもを遠ざけることです。もちろん湯を沸かさない、ご飯を炊かないわけにはいかないのですが子どもの行動範囲から遠ざけてください。具体的には炊飯器や電気ケトルを置く位置やコードの位置を高くすることです。

暖かい飲み物・食べ物の準備が悲劇の引き金にならないように今一度環境を見直して楽しい冬を過ごしてください。

